

経営比較分析表（令和元年度決算）

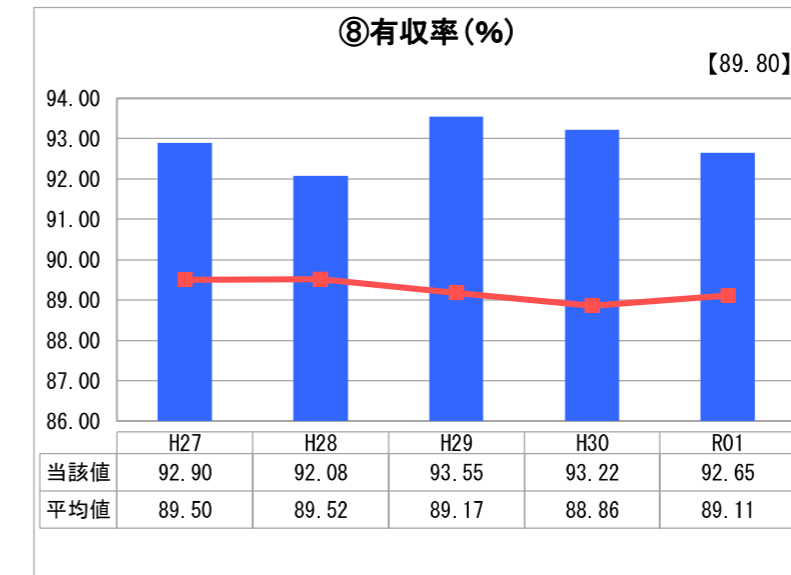
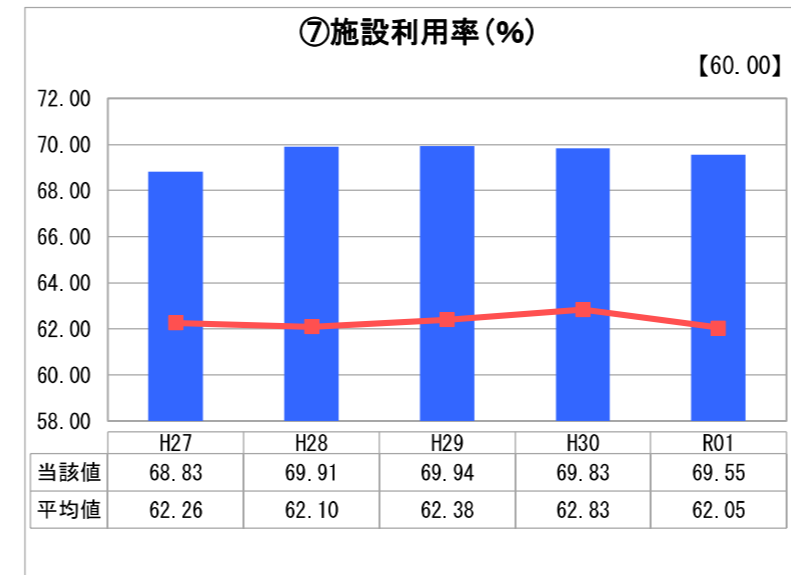
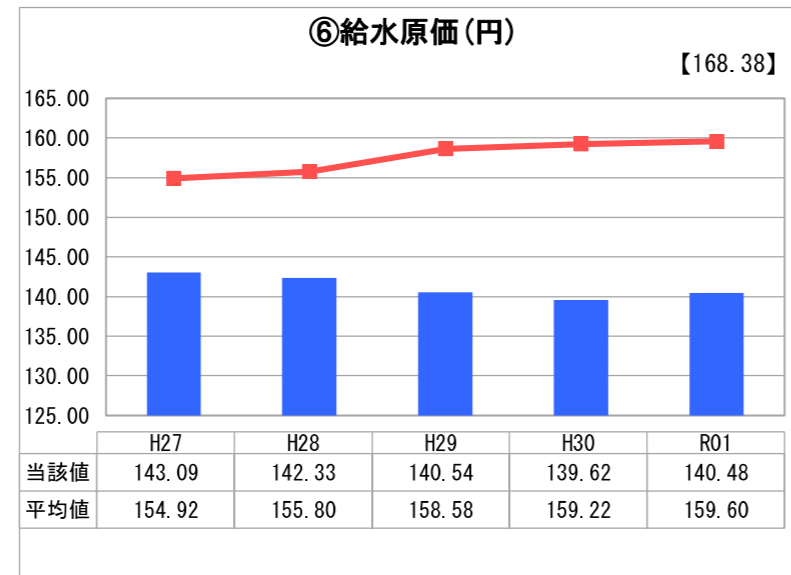
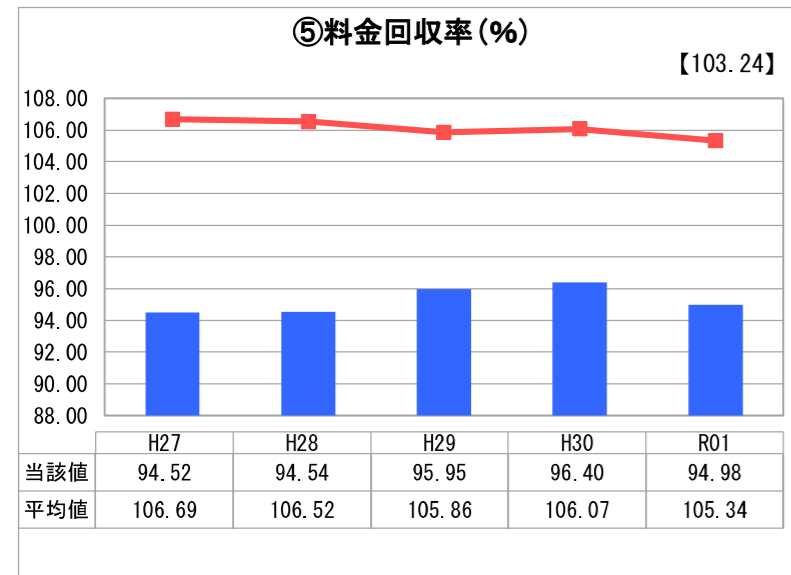
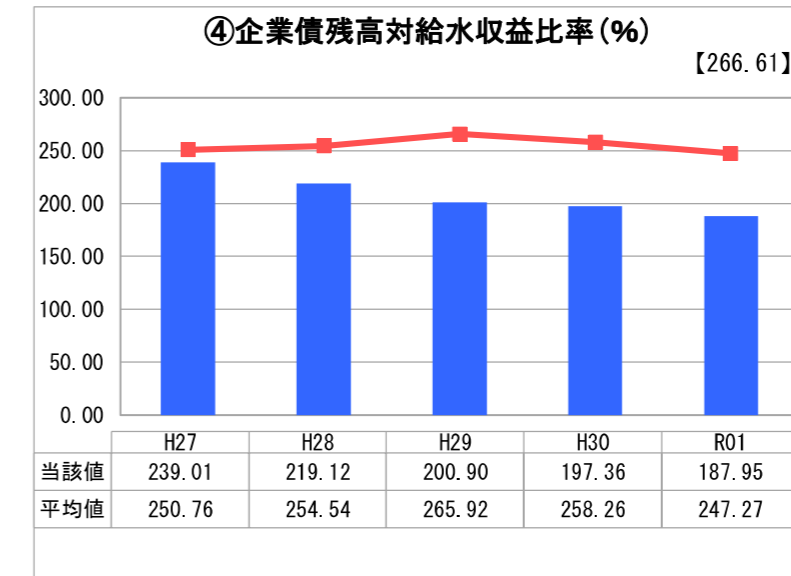
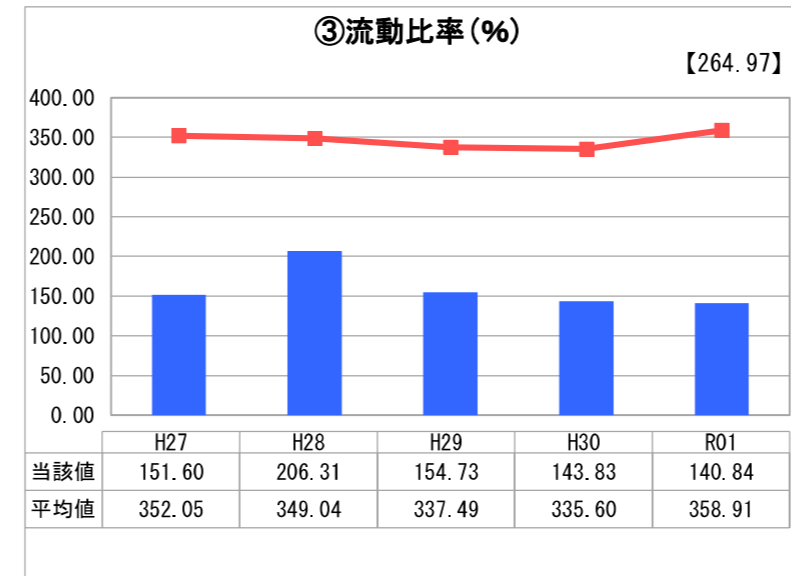
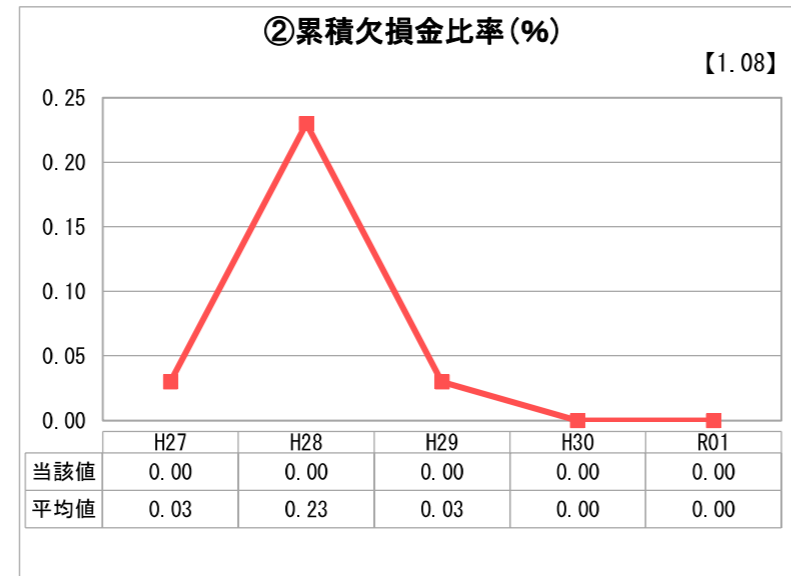
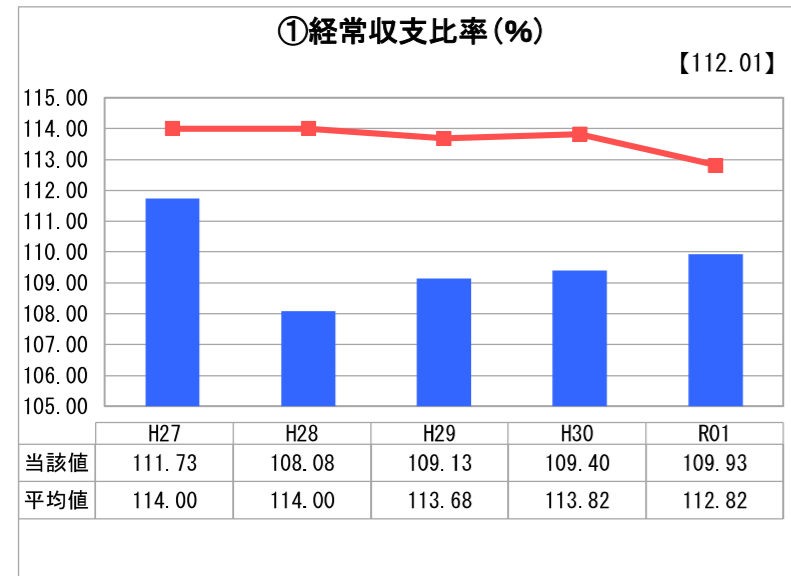
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.66	100.00	1,749	

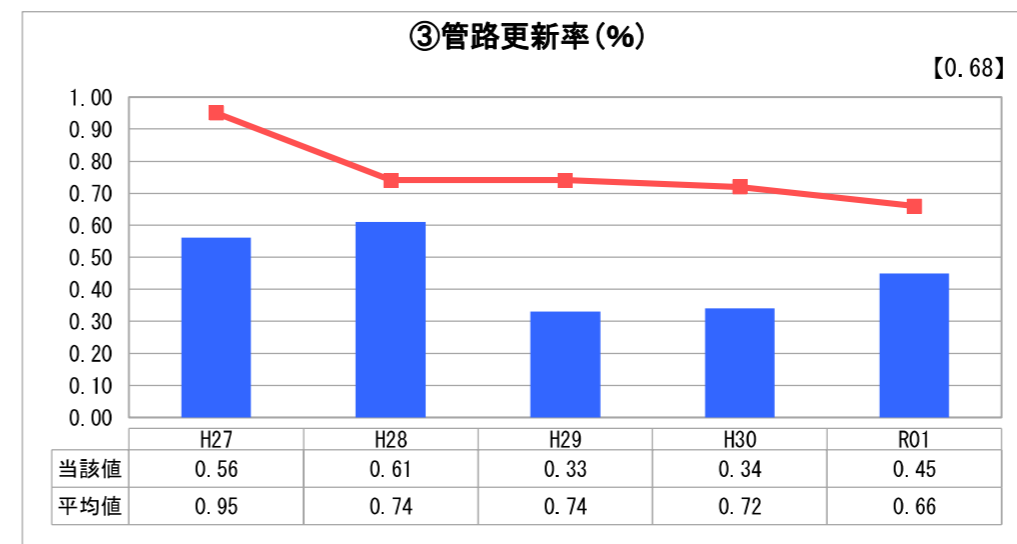
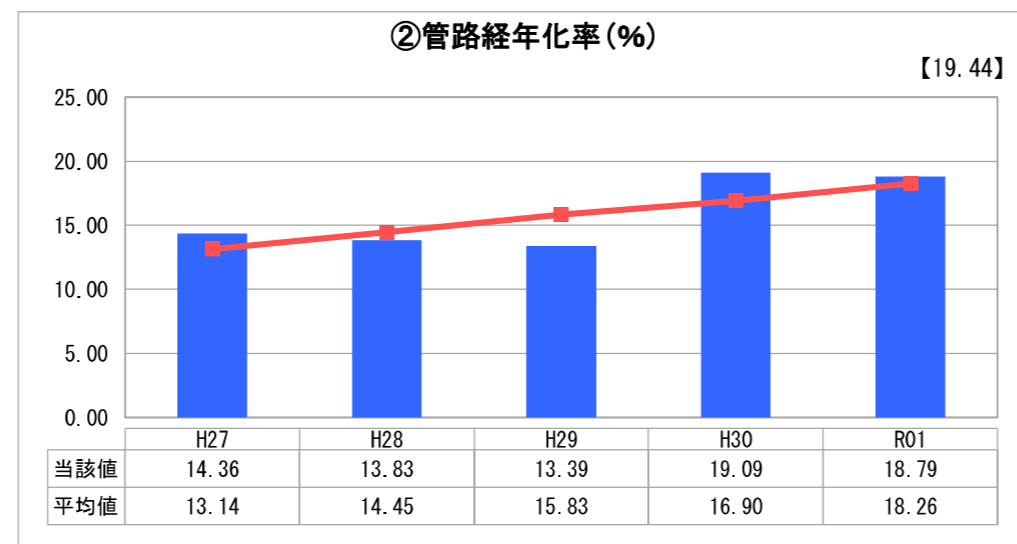
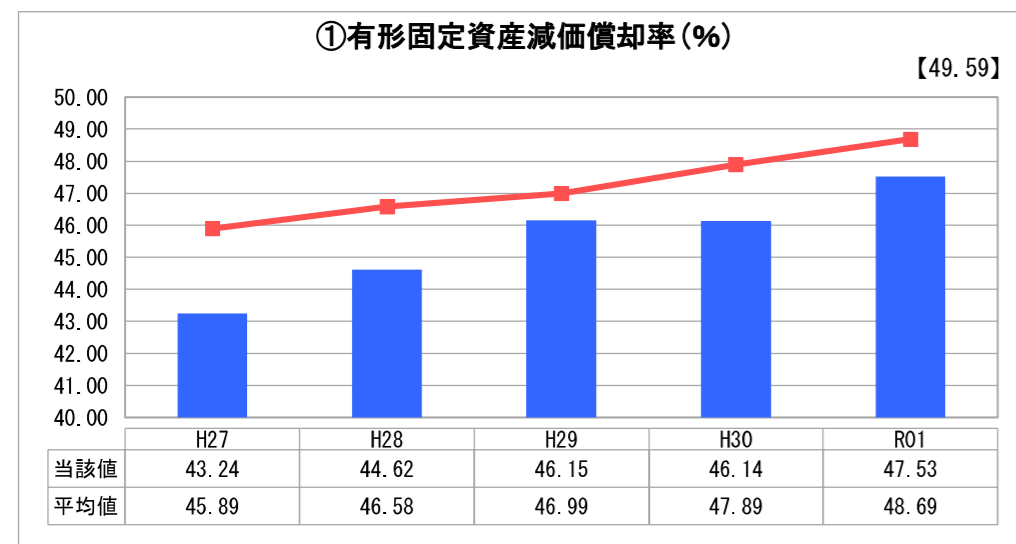
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
140,642	18.19	7,731.83
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
140,645	18.19	7,732.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
収益的収支の均衡を示す指標です。事業の効率的な運営に努めてきた結果、100%を超えて推移しており収支は黒字を維持しています。ただし、⑤料金回収率は100%未満であり、給水収益以外の分担金収入等に依存している状況です。
- ② 累積欠損比率
累積欠損金は、収支の赤字が複数年度にわたり累積したものです。本市の収支は黒字を維持しているため、累積欠損金はありません。
- ③ 流動比率
1年以内に支払う債務に対する支払能力を示す指標です。本市では、継続して100%以上を維持しており、支払能力に問題はありありません。なお、類似団体平均と比較して値が低いのは手持資金を長期で資金運用しているためです。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
水道施設を建設する際の借入金残高の規模と水道料金収入との均衡を示す指標です。平成28年度までの10年間にわたる企業債の借入抑制の結果、類似団体より低い値となっています。
- ⑤ 料金回収率
料金と費用の均衡を示す指標です。比率が100%を下回っているのは、給水にかかる費用が料金収入で賄えていないことを示しています。類似団体平均と比較しても低く、課題となっています。
- ⑥ 給水原価
1m³の水を製造するのにいくらかかるかを示す値で水道の製造原価です。本市は市域が狭く平坦な地形で、建物も密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、他団体と比較して給水原価が低い傾向です。
- ⑦ 施設利用率
水道施設の利用状況を示す指標です。指標が低すぎる場合は過剰施設、遊休状態の可能性があります。類似団体平均値よりも高い値であり、施設規模は適切であると考えられます。
- ⑧ 有収率
配水量に対する収益に繋がった水量の割合を示す指標で、比率が高いほど、効率的に水を届けていることになります。類似団体平均値よりも高い数値を維持しています。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
有形固定資産の減価償却の進捗度や資産の老朽化を示す指標です。類似団体よりも低い比率となっているものの、上昇傾向にあり、水道管渠や浄水場施設等の老朽化が進行しています。
- ② 管路経年化率
管路経年化率は、法定耐用年数を超えた管路(水道管)の割合を示す指標です。前年度と比較して、法定耐用年数を超えた管路が減少及び更新した管路の延長距離が増加したことで、結果として前年度の数値を下回りました。なお、緊急時には適宜、管路修繕を実施しているため、法定耐用年数を超えたことで直ちに設備が使用不可能になることはありません。
- ③ 管路更新率
管路更新率は、全ての管路延長に対しこの1年間に更新された管路の割合を示す指標です。管径の大きな基幹管路を重点的に更新していることから、類似団体平均より更新率は低くなっています。また、上記指標には反映されませんが市役所等の防災拠点や総合病院、福祉施設、避難場所等の重要施設まで確実に水を供給するための重要幹線ルートへの優先的な耐震化にも計画的に取り組んでいます。

全体総括

現時点で経営の効率性、財務の健全性は概ね確保されているといえます。しかし、今後は工場等の大口需要者の使用水量の減少や節水機器の普及等により、水道料金収入の伸びは見込めない状況の中、施設の更新・耐震化に伴う多額の費用を確保しなければなりません。今後も水道ビジョンや経営計画に基づいて、施設更新や事業経営を計画的かつ効率的に実施していきます。

経営比較分析表（令和元年度決算）

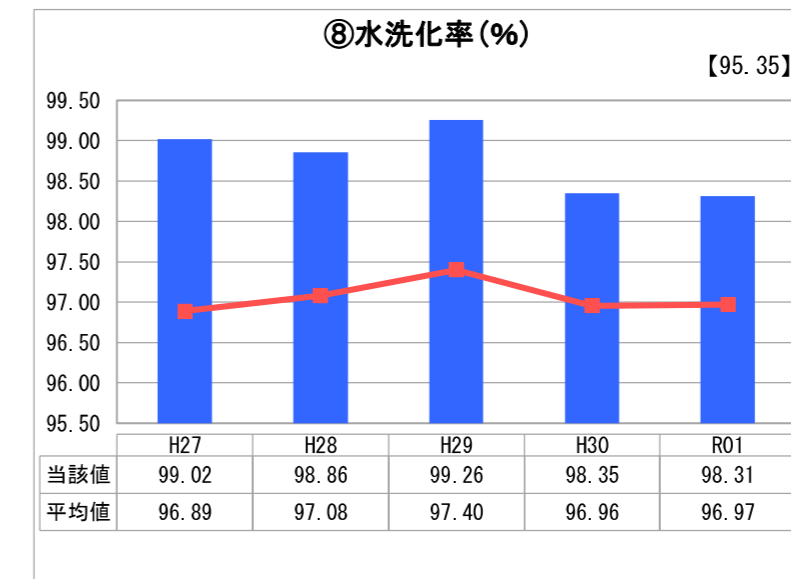
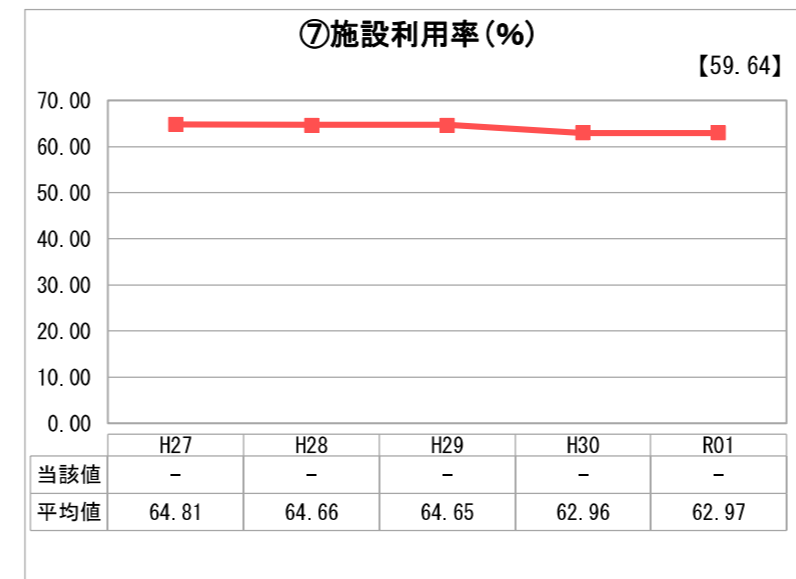
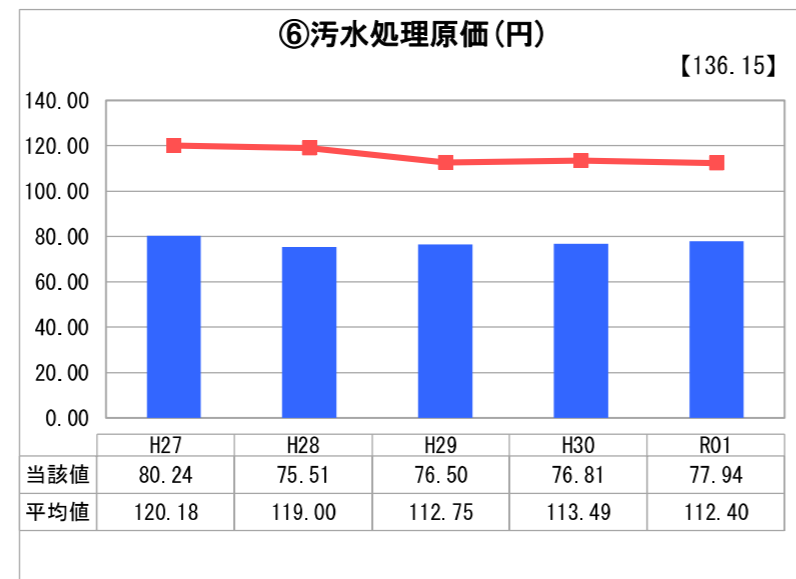
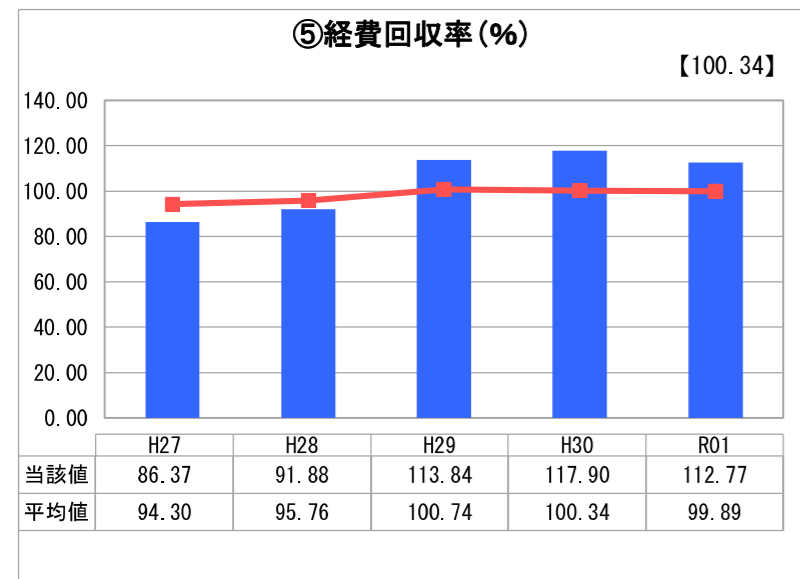
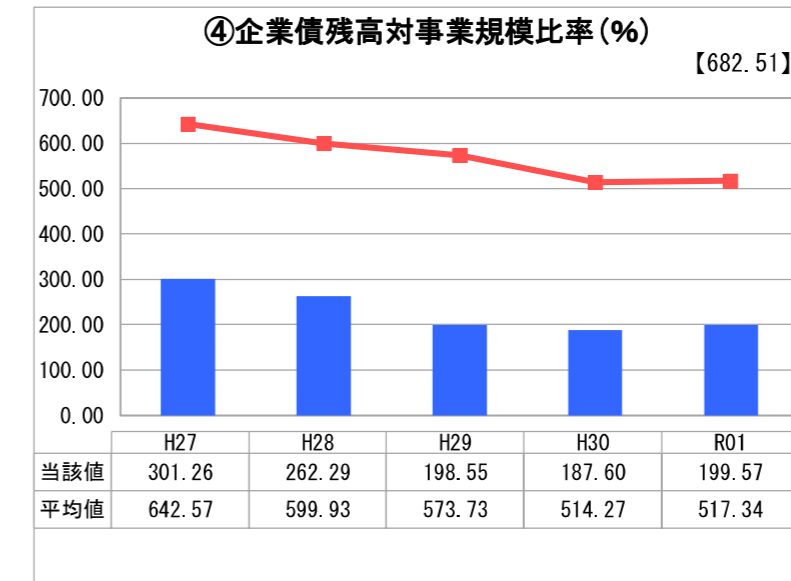
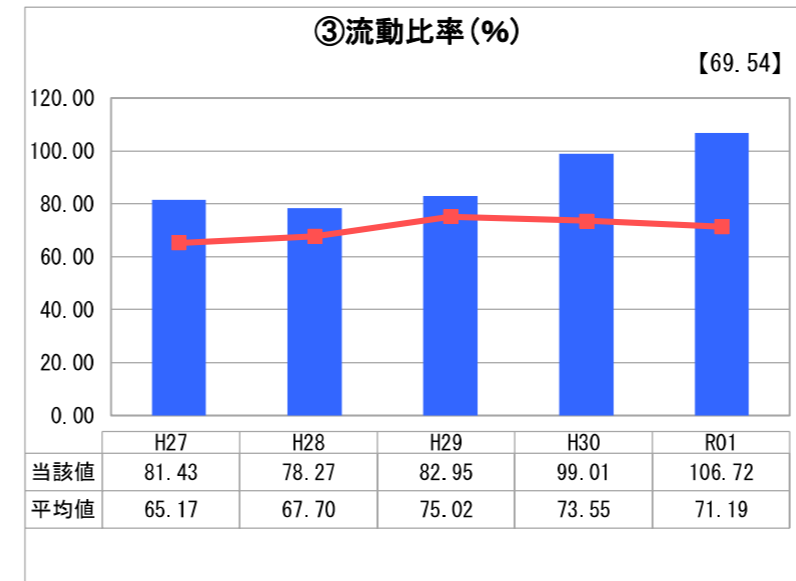
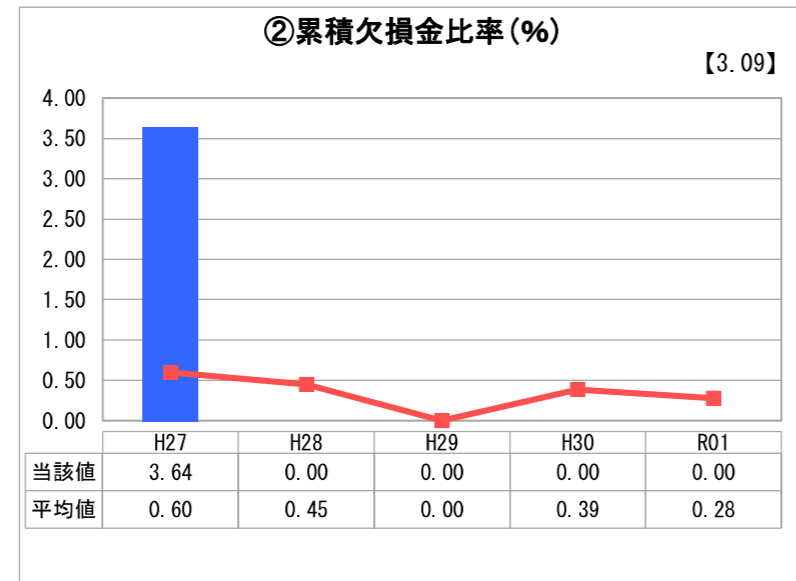
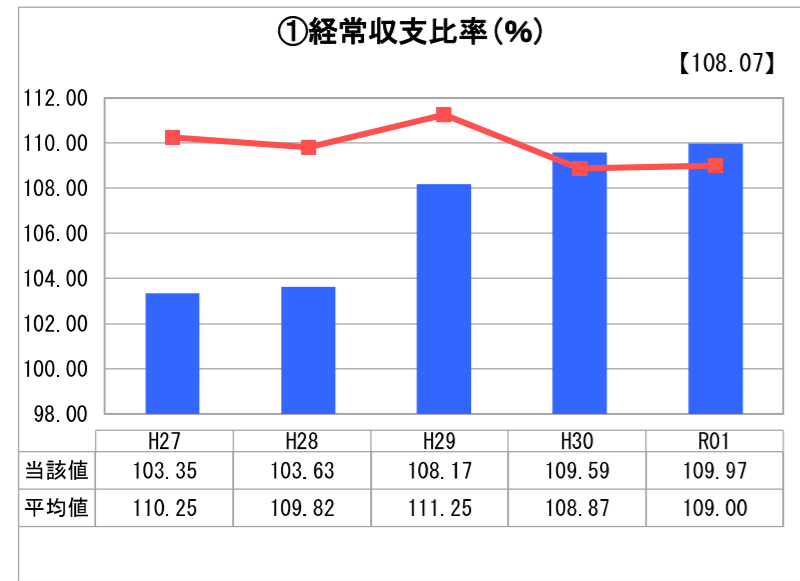
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	57.32	92.01	78.15	1,023

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
140,642	18.19	7,731.83
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
129,405	12.22	10,589.61

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
収益的収支の均衡を示す指標です。比率が100%を超えているため単年度収支は黒字となっています。また、⑤経費回収率が100%を上回り使用料収入で汚水処理費を賄っている状況です。

② 累積欠損金比率
累積欠損金とは、収支の赤字が複数年度にわたり累積したものです。平成27年度に発生した欠損金は翌28年度の利益で解消したため、それ以降は累積欠損金が生じていません。

③ 流動比率
短期的な支払能力を示す指標です。令和元年度については100%を超え、短期的債務に対する支払い能力の改善が見られました。引き続き健全な経営を行ってまいります。

④ 企業債残高対事業規模比率
企業債残高と使用料収入の割合を表す指標です。過去に借り入れた企業債の償還が順次終了しますが、設備投資を多く行ったため、前年度をわずかながら上回りました。

⑤ 経費回収率
使用料収入と汚水処理費用の均衡を示す指標です。平成29年度以降は使用料改定を行ったことで経費回収率が100%を超え、使用料収入で汚水処理費を賄うことができるようになりました。

⑥ 汚水処理原価
1m³の汚水を処理するのに要する費用を示す指標です。本市は市域が狭く平坦な地形で、建物が密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、効率的に汚水処理を行うことができます。その結果、他団体と比較して汚水処理原価が低い傾向です。

⑦ 施設利用率
下水道施設の利用状況を示す指標です。本市は下水道処理場を保有していないため、本指標は該当しません。

⑧ 水洗化率
下水道が整備されている区域内で、実際に下水道に接続して汚水を処理している人口の割合を示す指標です。前年度より率が減少していることから、下水道を整備する際の接続啓発により注力し、今後も100%を目指し継続促進に取り組みます。

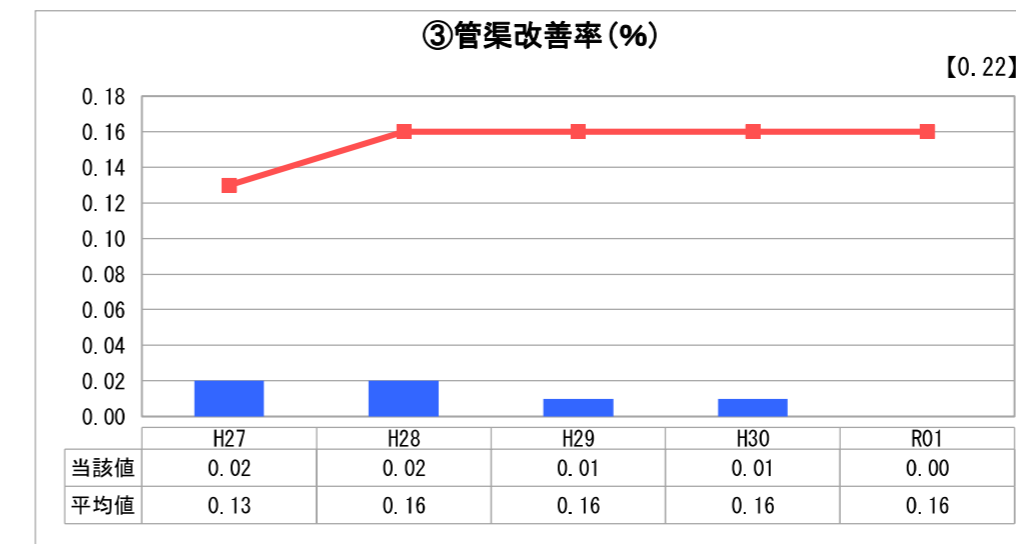
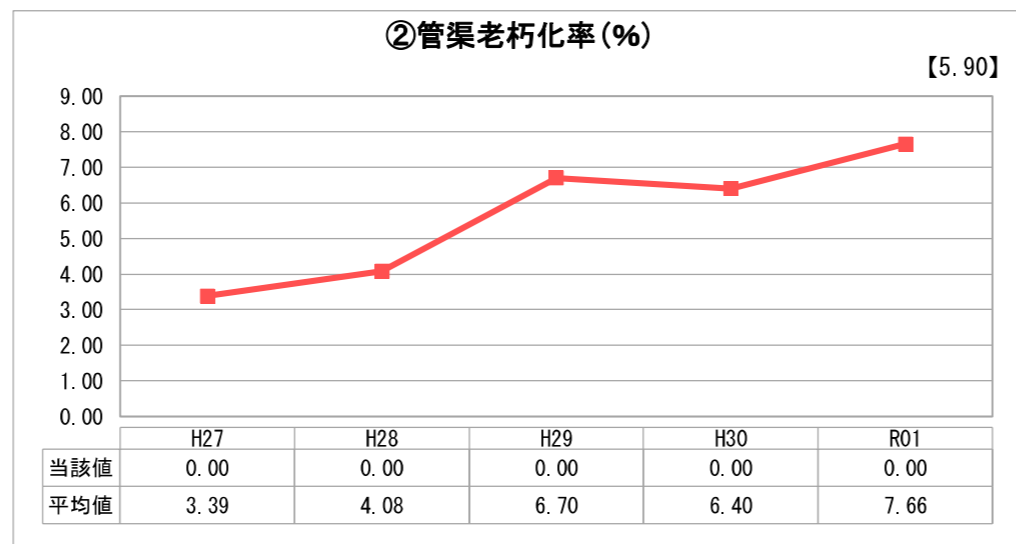
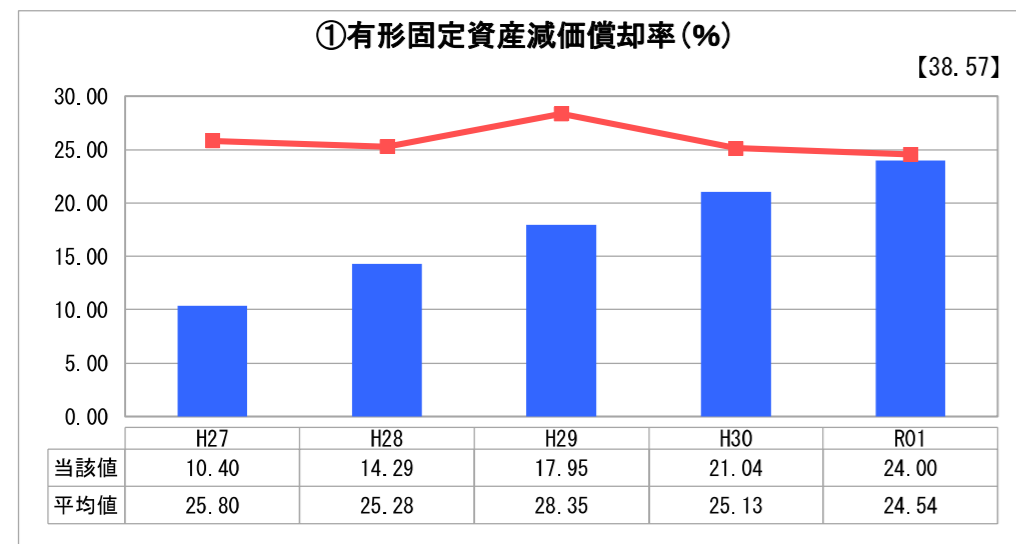
2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
有形固定資産の減価償却の進捗度や資産の老朽化を示す指標です。類似団体よりも低い比率となっているものの、年々上昇しており、下水道管渠やポンプ場施設等の老朽化が進行しています。老朽化した管渠の改築更新を効率的に実施するため、管渠調査による老朽化状況の把握に努めます。

② 管渠老朽化率
全ての管渠のうち法定耐用年数を超えた管渠の割合を示す指標です。令和元年度では、法定耐用年数を経過した管渠は保有していません。

③ 管渠改善率
全ての管渠の延長に対し、当該1年間に更新された管渠の割合を示す指標です。令和元年度では更新管渠はありませんでした。これは法定耐用年数を経過した管渠が無いことと、下水道未整備地区の整備を優先しているためであり、管渠の状況から必要に応じて、計画的に更新を行っています。

2. 老朽化の状況



全体総括

平成29年度に使用料改定を行い、経費回収率は100%を超えて独立採算による事業運営を行っています。しかし、今後、管渠及びポンプ場施設等の老朽化に伴う更新費用の増加と下水道未整備地区の整備が重なり、建設改良費は増大していくことが見込まれることから、下水道ビジョンや経営計画等に基づいて、計画的な改築更新を実施していきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。